

① 出発点は「子育ての孤独」

- 便利な生活が一転！
「駅徒歩10分、駅前に百貨店」 共働きの便利な生活が、出産後一転、泣き続ける子どもと二人、一日中マンションの中で過ごすようになり、「近所の顔見知り」が、たった数人」であることに気づく。
- 子育ての閉塞感に息づまる・・・
狭くなる行動範囲、24時間続く母親業、仕事への未練。公園には子どもは少なく、友達づくりは背水の陣、本音でつきあえる仲間が得られない。
- バギーを押しながら、気になり始めた「まち」のこと



「気になり始めたこと」「何とかしたいこと」
気づきが、そのままでは**もったいない**

**無いものは
創るしかない？**

② NPO を立ち上げ

乳幼児を持つ母親たち中心のまちづくりNPO
広報紙発行・親子のひろば開催など

- コンセプト
*孤立した子育てから、支えあう子育てへ。
*子育てが生む、沢山の気づきを出発点に、子どもも自分もまちも育てたい。
- 気づいたこと:動けば変わる
「欲しいものは、あきらめないで、願ってもいいんだね」
欲しいと声をあげて、動きはじめれば、助けてくれる人がいると気付けた
- 見えてきたこと:1団体だけでは実現しないこともある
活動場所の使い方で、公共施設の管理者とぶつかる。近隣の調査を経て、必要取組を区役所へ提言するが、1団体の意見と取り入れられず、大きな仕組は変えられない。



「支えあい」から
「おすそわけ」の活動へ

集まって出来た事は沢山あるけれど、
それでも出来ない事を どうする？

③

みんなで行政提言

市民アンケート「子育てこれが課題、こんなものが必要」。
提案項目約9千件の意見を、横浜市の中長期計画案の
パブリックコメントへ提出。

● コンセプト

- * 抱える課題テーマや子どもの年齢を縦につなぎ、行政との連携・協働も視野に「子育てしやすいまち横浜」の実現をめざす。
- * 横浜の子育て・子育てを支えるネットワーク構築の第一歩をめざした。

● 課題と気づき

子育てや子どもの育ちを考えることは、社会まるごとを考える事
何か役にたちたい人は多いが、何をしたらいいかわからない。
行政へのパイプはできたが、企業や職域への働きかけはできなかった。



職域への働きかけを、**どうする？**

誰もが子どもの育ちを

応援できる**仕組み**が欲しい

④

市民ファンドの立ち上げ

個人・企業・組合等から寄付を募り、子育て・子ども支援のNPOへ助成する仕組。
10年で、総額約3,000万円をのべ78団体へ助成。

● コンセプト

- * 子どもたちが生きていることに喜びと誇りを持てる地域社会づくりをめざす
- * 社会資源の活用、循環で、子ども・若者や子育てを社会で支える。

● 気づき

子育てや子どもの育ちを支えるためには多様な組織の連携を生むコーディネイトが必要。
団体の発信力や信頼・共感を高めることが求められている。

子どもの育ちを応援したい組織をつなぐ
コーディネイト・サポートが欲しい！

子どもの未来サポートオフィス設立

支援対象を、企業・組合・学校・NPOなど多様な組織へ広げる

● コンセプト

- * 子どもたちが、明日に夢を持ち、自分を信じて生きていける社会づくり
- * 子ども・子育て支援の社会資源をつなぎ、地域の中で人と人がつながり
支えあう関係づくりを進める各種取組の支援を行う。

● 事業内容

子ども・若者・子育て支援に関わるネットワークづくり、政策提言支援
地域の中で人がつながり支えあう場づくりの情報提供、運営支援、講座企画
NPOの運営・資金調達に関する相談、社会的起業に関する相談
「コミュニティカフェFun」の運営 <https://www.facebook.com/communitycafeFun>

